

平成19年緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰受賞者

(五十音順)

〔個人〕

いしど や ただお
石戸 谷 忠 夫 (青森県青森市)

たかなぎ ひでまる
高柳 英 麿 (神奈川県鎌倉市)

はっとり きょうこ
服部 恭 子 (北海道北見市)

〔団体〕

しんりん
いばらき森林クラブ (茨城県那珂市)

おおのがわさくら あいごかい
大野川桜づつみ愛護会 (大分県大分市)

きよさとちようはな みどり こうりゆう いいんかい
清里町花と緑と交流のまちづくり委員会 (北海道斜里郡清里町)

くまのしぜんほごれんらくきょうぎかい
熊野自然保護連絡協議会 (和歌山県東牟婁郡那智勝浦町)

つやましのむらちようないかい
津山市野村町内会 (岡山県津山市)

ふじのみやししらいとざいさんく
富士宮市白糸財産区 (静岡県富士宮市)

かぶしきがいしゃ まえばしこうじょう
プラス株式会社 前橋工場 (群馬県前橋市)

まつのやましょうがっこうみどり しょうねんだん
松之山小学校緑の少年団 (新潟県十日町市)

〔学校〕

しまねけんりついでものうりんこうとうがっこう
島根県立出雲農林高等学校 (島根県出雲市)

〔地方公共団体〕

まつもとし
松本市 (長野県松本市)

[個人]

<p>ふりがな 氏名</p>	<p>いしとや ただお 石戸谷 忠夫</p>
<p>住所</p>	<p>青森県青森市</p>
<p>功績の概要</p>	<p>同氏は昭和58年、青森市では最初となる「ヒノキアスナロ緑の少年団」結成に尽力し、青森営林局職員時代から培った知識と経験を基に、今日まで団員指導の中心的役割を継続し、緑化推進運動の意識醸成に努めてきた。</p> <p>この緑の少年団は、森林保護・美化活動コンクール優秀賞（平成6年）、緑化推進運動内閣総理大臣表彰（平成13年）などを受賞しているが、同氏の指導によるところが大である。</p> <p>平成12年からは、青森県緑の少（幼）年団連絡協議会副会長として、子供たちに幼少期から緑化の大切さを体験してもらうため、県内の少（幼）年団活動を支援している。</p> <p>平成14年には地域住民に呼びかけて、「沖館川をきれいにする会」を結成し、会長として定期的に清掃活動を行っている。その行動の原点には、「森・川・海は一つの生態系として保全すべきである」という高い意識がある。</p> <p>平成18年には、市民レベルで森づくりを支援しようと「沖館地域緑の募金推進協力会」を設立し、募金活動への協力をはじめ、森林・自然に関する講演会の開催、地元スギ間伐材を活用したごみ収集BOXの設置など、地域に密着した緑化活動への功績は高く評価されている。</p>

[個人]

<p>ふりがな 氏名</p>	<p>たかやなぎ ひでまる 高柳 英磨</p>
<p>住所</p>	<p>神奈川県鎌倉市</p>
<p>功績の概要</p>	<p>同氏は、古都保存法発祥の地「鎌倉 御谷」から続く若宮大路周辺の緑の整備を進めるために、緑による町づくりを推進し桜を街路樹として植樹するなど、昭和40年代から諸活動に積極的に参加し、緑に関する実践活動のリーダーを務めている。</p> <p>また、県みどりトラストの役員や環境に関する各委員なども務めており、多方面から都市の緑化活動に貢献している。そして、国土交通大臣表彰受賞後の平成16年からは、引き続き活動を続けており、同氏がリーダーである会等が以前より取り組んでいる市内の植樹が、平成18年に1,000本を超えた。</p> <p>さらに、同会等は世界遺産登録も視野に入れ、寺などに計画的に植栽を行い景観美化の活動も開始した。これらの活動においてはリーダーとして提言等を行っている。このほか、イベントでの緑化指導や講習会の講師等を年に数回務めており、緑化、美化、技術指導を通じ、都市緑化の普及啓発に多大な貢献をしている。</p>

[個人]

<p>ふりがな 氏名</p>	<p>はっとり きょうこ 服部 恭子</p>
<p>住所</p>	<p>北海道北見市</p>
<p>功績の概要</p>	<p>同氏は、昭和56年に緑化推進の市民団体として誕生した「緑と花の市民の会」の設立当初から緑化に取り組み、緑と花のあふれる住みよい街づくりに尽力している。</p> <p>緑と花の市民の会会長として、同会の長期計画「私達のみどり計画」を取りまとめ、北見市が平成13年に策定した「緑の基本計画」に同会の提言の趣旨が反映されるなど北見市における緑化の推進に貢献した。</p> <p>また、市民植樹祭に積極的に参画し、平成8年からは関係団体との調整などに指導力を発揮し、累計植樹本数は36,000本に達している。</p> <p>平成18年には北見市を含む1市3町の合併と同会の創立25周年を記念する市民植樹祭を実施するなど、市民への緑化思想の普及啓蒙、地域間交流の深化に貢献している。</p> <p>さらに、花いっぱい運動の推進を図る花壇コンクールを開催するほか、緑の募金活動にも積極的に参画するなど、市民の緑化保全の意識向上に尽力している。</p> <p>市長の諮問機関である北見市緑化審議会に平成9年から平成17年まで会長として緑化活動の啓蒙啓発、施策の審議提言に尽力し、北見市の緑の基本計画策定にあたっては、緑化関係者の意見集約にも指導力を発揮している。</p>

[団 体]

<p>ふ り が な 名 称</p>	<p>いばらき^{しんりん}森林クラブ</p>
<p>所 在 地</p>	<p>茨城県那珂市</p>
<p>代 表 者</p>	<p>代表 市野沢 伊司</p>
<p>功績の概要</p>	<p>いばらき森林クラブは、育樹活動に関心のある市民が健全な森林の育成と自然環境の改善に貢献することを目的に、平成9年に結成されたボランティア団体で、現在は会員数177名を数えるまでに至っている。</p> <p>その活動は、県内の公有林や私有林など12か所において、地拵え、植栽、下刈、除間伐等を毎月継続的に実施しているほか、森林資源の利活用にも取り組んでおり、除間伐等により生産された林産物を活用して、炭焼きやきのこ栽培、薪・そだ・腐葉土づくりなどの活動も行っている。</p> <p>なお、これらの活動を行うに当たっては、資格・免許の取得研修やグリーンボランティア研修等に積極的に参加するなど、安全衛生面や作業効率の向上など会員の資質向上に努めている。</p> <p>また、平成17年からは森林ボランティアを志す人への入門講座として「森林ボランティア育成講座」を開講し、新たな森林ボランティアの育成にも力を入れている。平成19年3月末現在で51名が講座を修了し、それぞれが森林ボランティアとして活動を始めている。</p> <p>このように、同団体は地域における健全で豊かな森林の育成及び保全に多大な貢献をしている。</p>

[団 体]

<p>ふ り が な 名 称</p>	<p>おおのがわさくら <small>あいごかい</small> 大野川桜 づつみ愛護会</p>
<p>所 在 地</p>	<p>大分県大分市</p>
<p>代 表 者</p>	<p>会長 工藤 盛</p>
<p>功績の概要</p>	<p>同団体は、平成9年7月に発足し、現在まで大野川右岸河口付近の大野川桜づつみとその周辺約3kmにおいて、桜づつみの維持管理（ゴミ拾い・流木撤去、除草など）を毎月1回実施している。</p> <p>また、大野川流域で活動する地域団体などが連携して組織する「大野川流域ネットワーキング」の参加団体であり、11月1日を大野川の日と定め、一斉に河川清掃活動を実施している。</p> <p>平成10年度からは、大在地区ふるさとづくり運動推進協議会の花いっぱい運動に協賛し、高水敷にコスモスや彼岸花を植栽する活動を開始し、近年においては、地元の小学生への体験学習への支援として、コスモスの種植えやその維持管理を協働で実施するなど、開花を迎える秋には、大野川河口部における風物詩となっている。</p> <p>さらに、平成16年度に『みどりの愛護のつどい』で国土交通大臣より愛護功労者表彰を受賞後の平成18年度からは、大分市の「地域活性化事業」に採択され、大分市大在支所と連携し、地域興しのためのグループを作り、大野川桜づつみにおいて、10月コスモス祭りを開催し地域緑化の推進とともに、地域づくりを実践している。</p>

[団 体]

<p>ふ り が な 名 称</p>	<p>きよさとちょうはな みどり こうりゅう いいんかい 清 里 町 花 と 緑 と 交 流 の まち づ くり 委 員 会</p>
<p>所 在 地</p>	<p>北海道斜里郡清里町</p>
<p>代 表 者</p>	<p>委員長 三上 政夫</p>
<p>功績の概要</p>	<p>同委員会は、平成13年に清里町第4次総合計画の重点プロジェクト事業であり、町民と行政のパートナーシップによる新たなまちづくりとしてスタートした「花と緑と交流のまちづくり事業」を推進する住民組織として、まちづくりを担う12団体により結成され、豊かな自然景観や農村アメニティを高めるとともに、花と緑に包まれた安らぎと潤いのある地域づくりに努めている。</p> <p>活動は、花と緑の事業（環境整備）と田園の散歩路事業、都市農村・国際交流事業など多岐にわたり、町全体をひとつの庭園（ガーデンタウン）と捉えた「花・みどりフェスタ」の開催や、子供から高齢者まで全町民参加によって花樹の植栽や管理が行われ、美しい地域環境が創出されるとともに、花と緑につながる各種イベントを通じ交流のまちづくりが推進され、地域の活性化が図られている。</p> <p>また、この事業を通じてまちの魅力の再発見や景観づくり・保全の大切さ、さらには、まちづくりへの参画に対する意欲が高まり、協働のまちづくりの中核事業として自立のまちづくりに大きく貢献している。</p>

[団 体]

<p>ふ り が な 名 称</p>	<p>くまのしぜんほごれんらくきょうぎかい 熊野自然保護連絡協議会</p>
<p>所 在 地</p>	<p>和歌山県東牟婁郡那智勝浦町</p>
<p>代 表 者</p>	<p>会長 中 蔦 章和</p>
<p>功績の概要</p>	<p>熊野自然保護連絡協議会（熊自連）は、熊野に在住する各分野の自然科学研究者や郷土史家が互いに連絡を取り合い、その知恵と力を結集し、すばらしい熊野の自然をなるべく現状のまま次世代に引き継ぐことを目的として1985年に設立された。運営委員による運営委員会（毎月1回以上）にて方針決定され、年間行事として、一般の方を対象とした自然観察会の開催（年4回以上）、会誌「三青」の発行、熊自連ニュースの発行、熊野の自然を語る研究発表会やシンポジウム、写真パネル展の開催（年1回）などを行う。環境省や近隣市町村が主催する自然観察会にも講師を派遣し、自然観察を通して自然のすばらしさ、大切さを広く訴えている。和歌山県で準絶滅危惧種に指定されるハマボウについては、設立当初より苗木作りや植樹、鉢植えの展示などを行いながら保護に取り組んでいる。そのほか、自然豊かな地域における各分野の調査研究や、各地域の希少動植物調査などに基づき、必要に応じて関係団体や行政機関などに自然環境保全のための陳情書や要望書の提出、意見具申を行うなど、かけがえのない熊野の自然を守るために幅広い活動を行っている。</p>

[団 体]

<p>ふりがな 名 称</p>	<p>つやましのむらちょうないかい 津山市野村町内会</p>
<p>所 在 地</p>	<p>岡山県津山市</p>
<p>代 表 者</p>	<p>会長 松田 淳史</p>
<p>功績の概要</p>	<p>津山市野村町内会は、戸数137戸・496名から成る自治会であり、野村地内を通過している一般国道53号及び県道津山智頭八頭線の沿道約600mの区間、及び両道路の交差点部に設けられた植樹帯において、昭和60年から今日に至るまで21年という長期にわたって毎月第一日曜日に、道路清掃やハボタン・パンジー等の植栽及びその手入れを実施している。特に交差点部の植樹帯では、春にパンジー・ビオラ、夏にはポチュラカ・マリーゴールド、秋にはニチニチソウ・ベゴニア、冬場はハボタンといったように四季を通じて美しい花々が咲くように、町内会の住民が子供からお年寄りまで幅広い年齢層でこぞって参加して植栽やその後の手入れが行われており、地域住民はもとより道行く人々に安らぎと憩いを与えている。平成16年には国土交通大臣から「みどりの愛護」功労者表彰状が贈られている。</p> <p>平成16年の受賞後も、同町内会の活動は非常に活発であり、平成18年度の活動実績（10月末現在）は、9日・延べ参加人数858人と町内会住民の2割以上が参加しているところであり、その参加率は驚異的である。同町内会の継続的・積極的な緑化活動の功績は顕著である。</p>

[団 体]

<p>ふ り が な 名 称</p>	<p>ふじのみやししらいとざいさんく 富士宮市白糸財産区</p>
<p>所 在 地</p>	<p>静岡県富士宮市</p>
<p>代 表 者</p>	<p>白糸財産区議長 佐野 智</p>
<p>功績の概要</p>	<p>白糸財産区は、昭和56年より小学生の参加による植林活動を継続して実施しており、次世代を担う子供たちに対し森林の大切さについての学習の場を提供している。</p> <p>また、台風による災害の発生時には地元が総力を挙げて復旧にあたり、森林保全思想の高揚に貢献した。</p> <p>白糸地区は重要な水源地になっており、水源かん養に古くから地域ぐるみで取り組み、地域の水源確保に大きく寄与している。</p> <p>さらに、区有林の中に「天子の森」を整備し、森林浴等で訪れる数十万人の人たちに対し、森林の恵みや緑化等に関する大きな啓発に役立っている。</p> <p>なお、平成12年に水資源功績者表彰を受賞したことを記念して、昭和61年に発掘した富士山の噴火の際に埋もれていた神代^{じんだい}杉^{すぎ}の展示館を建設し、森林についての一般の関心を高めることにも努めている。</p>

[団 体]

<p>ふ り が な 名 称</p>	<p>プラス株式会社 <small>かぶしきがいしゃ</small> 前橋工場 <small>まえばしこうじょう</small></p>
<p>所 在 地</p>	<p>群馬県前橋市</p>
<p>代 表 者</p>	<p>代表取締役社長 今泉 嘉久</p>
<p>功績の概要</p>	<p>同社は「自然と人との共生」をコンセプトに操業当初から工場緑化に力を入れ、さらには地域の環境美化への貢献、地元住民との交流にも積極的な取組を行っている。</p> <p>敷地周辺は塀、フェンスを設けず、常緑樹が植栽され、周辺の豊富な自然に溶け込んでいる。</p> <p>約16.7haの広大な緑地でありながら、除草、刈り込み等、手入れが行き届いた管理を実施しており、また、地域への開放スペースも設け、地域住民の憩いの場として提供している。雑草の繁殖期には全従業員を挙げて建物周辺の環境美化活動を実施している。これにより従業員の環境美化への意識を高めるとともに、周辺住民にも当工場の環境への取組が理解され良好な協力関係を築いている。</p> <p>「神沢川クリーン計画」として、社長以下全従業員と地域自治会・前橋市他行政との協働で神沢川の清掃を実施している。</p> <p>環境保全を会社経営の重要な柱の一つとして、プラスグループ各事業の特性や独自性を環境保全活動に生かせるようISO14001の個別認証を取得し、自然環境保全の推進に貢献している。</p>

[団 体]

<p>ふ り が な 名 称</p>	<p>まつのやましょうがっこうみどり しょうねんだん 松之山小学校緑の少年団</p>
<p>所 在 地</p>	<p>新潟県十日町市</p>
<p>代 表 者</p>	<p>松之山小学校緑の少年団育成会会長 (松之山小学校長) 小野塚修一</p>
<p>功績の概要</p>	<p>豪雪地として知られる十日町市松之山で結成された松之山小学校緑の少年団は小学校の全校児童61名により構成されている。</p> <p>平成4年に親子でブナの苗木600本を学校裏に植樹し、以来地域の方々の協力を得ながら保育管理を行い、観察・活動の場として学習にも役立てている。</p> <p>また、地域にあっても地元の「美人林」と呼ばれるブナ林の保全清掃活動を毎年実施し、平成13年度に全国育樹祭大会会長賞を受賞した。</p> <p>その後も、手入れの行き届いていなかった学校林の手入れを行い、憩いの場「^{ドリーム}夢パーク松6」として整備を行い、最近では「森の学校キョロロ」と協力してブナの種を拾い集めて苗木を育て、今後この苗木を植樹することとしている。</p> <p>同団の地域に広がる地道な活動は、地元テレビ局で紹介されるなど、地域住民の環境、緑化に対する意識にも大きな影響を与えている。</p>

[学 校]

<p>ふ り が な 名 称</p>	<p>しまねけんりついでものうりんこうとうがっこう 島根県立出雲農林高等学校</p>
<p>所 在 地</p>	<p>島根県出雲市</p>
<p>代 表 者</p>	<p>校長 佐野 明</p>
<p>功績の概要</p>	<p>同校の環境緑化整備事業は次の3期に分けられる。</p> <p>第1期は昭和48年から昭和63年までの期間で、新校地の築地松の造成と庭園樹の移植から始まった。</p> <p>第2期は平成元年から平成14年までの期間で、校舎中庭の「田園の広場」やグラウンド東南部にトチの木の並木を整備した。また創立60周年記念事業として、クロマツ、ウバメガシ等の記念植樹を行った。</p> <p>第3期は平成15年以降で、生徒が美しい学習環境で学校生活が送れることや地域住民との触れ合いを目指し、学校の公園化に取り組んだ。その中で、創立70周年記念事業に生徒一人一本のアジサイの植樹、卒業記念にナギの木の植樹やポプラの大木の周囲を憩いの場に整備した。</p> <p>このような活動が認められ、平成16年度全日本学校関係緑化コンクール（学校環境緑化の部）において、特選の文部科学大臣奨励賞を受賞した。</p> <p>その後も、緑化による学校の公園化として登校路の植樹や樹木学習園の造成をしたり、地域独特の景観である築地松の保全と新防風林の育成を目指してアカマツやカシを植樹したりしている。このように、地域社会での活動に視野を広げ、更に学校環境緑化の創造と推進に努めている。</p>

[地方公共団体]

<p>ふりがな 名称</p>	<p>まつもとし 松本市</p>
<p>所在地</p>	<p>長野県松本市</p>
<p>代表者</p>	<p>市長 菅谷 昭</p>
<p>功績の概要</p>	<p>松本市は、昭和27年に「社会を美しく、明るく、すみよくするため」をキャッチフレーズに市民による「街を花いっぱいにする会」が発足して以来、地域住民と行政が一体となり花いっぱい運動実践者の表彰や図画展等の運動を継続して取り組んできたことにより、平成8年度の自治大臣表彰を受賞した。花いっぱい運動が始まってから50年以上経過した現在、この運動の精神を引き継ぎ、発祥地としてふさわしい花と緑のまちづくりを進めるため、各町会の代表者等による「松本市緑化推進委員協議会」を設置するなど市民と行政とが協力し「美しいまち松本づくり事業」を展開している。</p> <p>具体的には、市民の手による観光客等を出迎えるための花壇の設置、コスモスの種まきやその後の管理を周辺住民が行うフラワーロードの推進、市民参加によるフラワーコンテスト、花いっぱいコンクール、オープンガーデン事業、全国から応募がある押し花はがきコンクールなど、花いっぱい運動の一層の推進と緑化の輪を広げる取組とともに、環境・景観美化に係る市民の自主的な活動が展開されている。</p>